

【特別講演 ドキュメント：『ファクトフルネス』大ヒットの舞台裏】

2019年1月の発売から1年経ってなお2020年度上半期ビジネス書ランキングで第1位となり、発行部数85万部を超えるベストセラー本「ファクトフルネス」は、世界的な指導者、科学者、一般の人に関わらず、だれもが陥っている「思い込み」の本能を理解することで、データに基づいて世界を正しく見る習慣をもつべきことを分かりやすく紹介した本です。例えば、新型コロナウイルスなどの危機に対しては、人が恐れや不安をもつことから生じる「誤解」や「焦り」を取り上げています。

本シンポジウムの特別講演では、「ファクトフルネス」の翻訳者である関美和先生をお招きし、「ファクトフルネス」のエッセンスだけでなく、この本が日本で登場するに至った経緯から、大きな話題となっている現在までの貴重なドキュメンタリーをお聞きます。ビジネスパーソンあるいは生活者の一人として、今日一日「ファクトフルネス」を考えてみては如何でしょうか？

<講演のアウトライン（予定）>

- 1 ファクトフルネスとは何か？
- 2 本当に「大」ヒットしたと言える？
- 3 日本での出版までの経緯（ハンス・ロスリング先生との経緯）
- 4 翻訳作業の裏側
- 5 マーケティング・PRの裏側
- 6 ファクトフルネスのこれから
- 7 Q&A

ファクトフルネスとは？

データや事実にもとづき、世界を正しく認識すること。

そのためには、誰もが持っている10種類の思い込み（直線本能、パターン化本能、焦り本能など）を意識し、抑制する必要があるとしている。

